ISSN 0919-4657

KONC

関西自然保護機構会報

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

16巻2号（通算28号）

シンポジウム●滅びゆく野生生物を救うために



1994年12月
関西自然保護機構

表紙の言葉

高橋さち子

イサザは琵琶湖の沖合いにすむ小さなハゼです。漁の盛期は冬です。船は厳寒の未明の闇の中をエンジンの音高く漁場へ向かいます。漁師は長年の経験とカンによって捕れる場所をねらい，チュービキと呼ばれる底曳網を入れます。水深90mもの深部に網を入れることもあります。網をウインチで引き上げていくと，途中で網の袋の部分だけがぽかりと水面に浮きます。イサザは湖底から急激に引き上げられたため，浮き袋が腹いっぱいに膨らみ，浮き上がってしまうのです。昇ったばかりの陽の光がアメ色の魚体にきらきらと反射しますが，イサザは肛門から腸が反転して飛び出したり，えらぶたから内臓がはみ出したりした無残な状態になっています。春になるとイサザは産卵のために接岸し，沿岸のエリと呼ばれる定置網に入るようになります。この時期だけは産卵場で直接観察することも，採集して飼育することもできます。水槽に入れると，雄は石の下から砂粒をくわえて運び出して巣作りをし，雌を呼び込んで産卵し，さらに孵化まで保護するという一連の行動を見せます。雌は産卵後沖合いへ帰って生き延びるものも多いようですが，産卵期が終わった産卵場にはやせ衰えた雄の死体が散乱します。イサザは琵琶湖で進化した琵琶湖固有のハゼで，生物学的にも貴重なものです。ところが近年は漁獲が激減しています。94年の産卵期に産卵場を観察しましたが1匹も見つけることが出来ませんでした。上に述べたような光景はもしかしたら2度と見ることは出来ないのではないかと憂慮しています。

（写真提供：琵琶湖文化館）

関西自然保護機構（KONC：Kansai Organization for Nature Conservation）

KONCはなんらかの形で，専門家として自然環境保護にかかわる人たちを幅広く組織して，自然環境保全に関する各分野での研究を結集し，その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして，1978年に創立されました。

KONCはその活動の成果と，会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて，近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザリー・ボディ（助言勧告機関）として，社会の要請にこたえることを企図しています。

現在，次のような活動をしています。

1．基礎研究の実施
2．シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3．現地見学会の開催
4．研究助成金の交付
5．会報・連絡紙の発行
6．自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7．自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8．国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は，個人会員・推持会員の会費により，まかなわれています。